

尺度使用マニュアル

<尺度名>

「日本語版 Worry Domain Questionnaire (大学生用)」

<測定概念>

近年、心理学および医学の分野において"Worry (心配)"という現象が注目されはじめている。先行研究においては、心配と特性不安には弱い、もしくは中程度の関連があることが報告されている。本尺度は、病的な心配ではなく、一般大学生が普段感じる心配を測定している。元々は大学生を対象とした尺度ではなかったが、日本語版を作成する際に、大学生用へと内容を修正している。「関係」「自身の欠如」「未来への目的の無さ」「仕事への不適応」そして、「生計」の5つの種類の心配を測定している。

<適用範囲>

適用範囲は基本的には大学生である。ただし、大学院生、短期大学生、専門学校生にも適用範囲を広げることが可能と考えられる。

<尺度構成手続き>

原文の意味を適切に反映すること、および自然な日本語にすることに注意し、いくつかの手続きを経て訳を作成した。また、その際には、学生を対象とした内容へと修正をおこなった。さらに、79名の学生を対象とし予備調査をおこない、その後、若干の修正を加えた後に本調査をおこなっている。

本調査では、関東圏の私立大学に在籍している学生208名(男子100人、女子108人、年齢；平均20.5歳、標準偏差3.47)のデータを使用している。

<信頼性>

内的整合性であるが、 α の値は0.74から0.84の間であり、十分な内的整合性があると考えられる。

<妥当性>

STAI-T 得点との相関係数が0.23から0.49の間であり、不安との間には低度から中度の関連があることが示された。これは、当初想定したとおりであり、この結果から、構成概念妥当性が確認されたとみなした。

<採点方法>

選択肢は、各項目に対してどの程度心配しているか、「0.まったく心配しない」から「4.

非常に心配する」までの 5 段階で評定を求めるものであるが、それぞれ 0～4 点を与え、加算する。なお、下位尺度は項目 1～5 が「関係」、項目 6～10 が「自身の欠如」、項目 11～15 が「未来への目的の無さ」、項目 16～20 が「仕事への不適応」、項目 21～25 が「生計」であり、それぞれ項目得点を加算して下位尺度得点を算出する。

<尺度の使用について>

項目の変更はおこなわない方が望ましい。また、各下位尺度の弁別性が十分には確認されていないため、特定の下位尺度のみを使用することは望まれない。追試の意味も含め、すべての下位尺度の使用が望まれる。

<解釈方法>

- ・得点が高いほど、その内容についての心配の程度が高いと解釈する。

<出典文献>

鈴木公啓 2004 日本人大学生の心配について-Worry Domain Questionnaire に基づく日本語版 WDQ (大学生用) の作成の試みを通して- パーソナリティ研究, 12, 73-81.

<連絡先>

鈴木公啓 (東洋大学大学院社会学研究科)
suzukirt@h9.dion.ne.jp

<無料・有料の別>

無料

<著作権関連情報>

転載は著者の承諾を得ること

<その他>

教示文は、「以下のことをどのくらい心配しますか？あてはまるところに○をつけてください。」である。

また、項目の順番はランダムに配置して施行することを推奨する。

なお、本尺度を用いた研究をおこなった場合、その結果について一報していただくと幸いです。